

第16回「教育を語る会」

令和8年2月14日(土)、会員の生きがいづくりと地域の教育振興に寄与することを目的とした「教育を語る会」が会員及び現職校長の参加で開催された。

恒例となったこの会は回を重ね今回が16回目となり、県営狭山稲荷山公園横のレストラン「ニックス」を会場として、1部発表、2部懇親会という内容で行われた。

1部3名の発表は1時間半があつという間に終わるほどの大変熱心なもので、充実した内容であった。



会長挨拶



参加者

現場からは学校の現状と課題とその対応についての発表があった。短い時間にもかかわらずよく分かるようにまとめられた内容で、地域に根差した児童生徒を育てたいという熱い思いの伝わるものであった。



発表者

会員からは不登校児童生徒の支援について、支援の在り方の潮目となった「社会的自立」という言葉の中で、児童生徒を学校の小社会とどう繋がらせるのか貴重な発表であった。また、『馬』と題しての発表(概要は入間地区退職校長会会報『いるま』第47号掲載)は、学校現場から離れた一般社会での経験がやりがいを生み生きがいとなっているものであった。『馬』との関わりから性格により接し方の違いを習得していく様子などは人との接し方にも通じるものがあり興味をそそるものであった。

現職校長も交えた2部の懇親会は、1部とは異なる雰囲気とざっくばらんな語らいの中で楽しい交歓の場となり、親交を深める有意義な時間となった。

狭山市退職校長会は、困難を極めている教育現場の実態を把握しどのように繋がっていけるのか、今その課題探求の途上にある。今年度最後の行事となった「教育を語る会」は延べ64名の参加を得て、現職校長を交え熱心な情報交換の場となり、盛況裡に終えることができた。

こうした会の積み重ねが、目的の一つとして、課題解決の足掛かりになることを願うものである。